

①大師堂

天津の引土ひきつちに所在。大師堂という名称のように、弘法大師を祀った堂で、この大師像の胎内には、多くの写経が納められている。写経は48点あり、「享保20年、当院先師 隠居奉納 宥雅」と記された紙片があり、享保20年（1735）に納められたと推定される。宥雅が誰なのか、わからないが、経典が密教系のものであること、弘法大師像が祀られていることから、この堂は真言系の堂であったといえる。

②浅間神社

天津の引土ひきつちに所在。祭神は、木花咲耶姫命このはなのさくやひめ。神社の裏山は太平洋に面した独立峰で、境内から頂上へ続く道があり、頂上の洞窟は、石橋山の戦いに敗れた源頼朝みなもとよりともを救った梶原景時が隠れたという伝説がある。この頂上からの眺めは素晴らしく、洞窟の西側に立つと、晴れた日には富士山も見ることができる。

明治32年（1899）の銘のある石碑があり、当時の天津に浅間信仰の講中があったことなどがわかる。例祭日は、7月第1土曜日で出店も出て、にぎやかである。

③弁天堂

天津の布入ふいりに所在。弁財天、釈迦、観音、阿弥陀の各像があり、不動明王像もあることから真言系の堂であったされる。

堂の前に「亀龍神」の碑があり、慶応2年（1868）5月15日に、手漕ぎの漁船が拾ってきた亀を祀ったことが刻まれており、海に関する漁民の信仰の様子を伝えるものである。現在も、近隣の漁師は、豊漁を願ってお参りをしている。

④ロシア人来航の地

鎖国下にあった江戸時代の元文4年（1739）5月、天津村2里（8km）の沖合いに、ロシアの探検隊が来航し、乗組員数名がボートでこの地に上陸した。漁民たちから、水や大根などをもらい、ロシア側は、貨幣と数珠玉を渡したという。この出来事は、村人の口述をまとめた文書とロシア側の文書からも詳しく知ることができる。

我が国（北海道を除く）で初めてのロシア人上陸であるため、全国的な視点からも外交史上での大きな出来事であると共に、貴重な史跡である。

⑤葛ヶ崎城跡

この城跡は角田丹後守の居城であったが、天正8年（1589）に起こった天正の内乱（正木憲時の乱）において里見氏によって攻略された。軍記物語などには、当時、城を守っていた丹後守の弟の角田丹波の話が伝えられており、本城跡は別名、『浜狭はまの狭要害』と記されているが、遺構いこうがわずかに認められた程度で、現在は道も廃れて登るのは危険であり跡地には何も残っていない。

⑥薬師堂

浜荻の薬師に所在。地元では、字元薬師にあった寺を移したという伝承がある。

室内には、本尊と思われる薬師如来のほか、観音と勢至の両菩薩を脇侍とした三尊形式の阿弥陀如来にょらい他、多聞天たもんてん、毘沙門天びしやもんてん、如意輪観音にょいりんとともに弘法大師像などが安置されていることから、真言系の堂であったといえる。

⑦貴船神社

祭神は高たか籠かみ神かみ、誉田別命ほんだわけ、猿田彦命さるたひこの三柱の神である。貴船神社は、通称、「うちかさま」と呼ばれていた。北浦忠吾・忠内が発願して、村中の協力で創建した神社と伝えられている。

祭日は、8月第1土曜。宮出しの際、神輿を先導する天狗11人衆さるたひこ（猿田彦命）や獅子頭などの巡遊行列が珍しい。

⑧多聞寺（日蓮宗）

本尊は「十界本尊」であり、本堂には日蓮聖人坐像もんじゆ、文殊もんじゆ・普賢菩薩坐像ふげんぼさつ、四天王立像してんのう、御出迎おでむかえ毘沙門天王立像びしやもんてんのう、三十番神坐像さんじゅうばんじんなどが安置されている。

境内には、日蓮聖人が、文永元年（1264）、小松原法難の際、地頭の東条景信じとうから襲撃をうけた時に聖人を助けた北浦忠吾・忠内の墓がある。

また、墓地の歴代僧侶の墓には、元和4年（1618）銘の宝篋印塔ほうきょういんとうがあり、東条藩主西郷家員さいこうかみん夫人のものである。

⑨創洗きずい井戸

日蓮聖人は、文永元年（1264）、小松原法難の際、地頭の東条景信とうじょうから襲撃をうけ、眉間に3寸余りの刀傷を負い、ここで傷の養生をしたといわれる。

傍らにある石は、日蓮聖人が腰かけたとの伝説がある。

鴨川市教育委員会 生涯学習課 文化振興室 郷土資料館 鴨川市横渚1406-1 電話 04-7093-3800 平成22年3月
--

作図 辰野節子